

GREEN RADAR

Vol.514
2022

3

Contents

中期事業計画（令和4～6年度）

A-Policy【重点事業方針】

・生産販売部 販売開発課の取組み

A-Reports

- ・長野米消費拡大キャンペーン
「COCO'Sで長野米キャンペーン」開催中 6
- ・新大関・御嶽海関を食で応援 6
- ・学校給食向けのご活用セミナー 7
- ・カットえのきとエリンギの新レシピを提案 8

- ・古往今来 9
- ・JA全農長野の事業現況 10
- ・園芸情報誌2誌「信州のそ菜」「信州の果実」
新規購読者様 募集中です 10
- ・3月のラジオ番組表 10
- ・編集後記 10



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

中期事業計画（令和4～6年度）

基本方針

- 国内経済を取り巻く環境は、コロナ禍による社会の分断を契機とした価値観の変化と劇的に進展するデジタル化、自然災害の頻発・激甚化、SDGsをはじめとした持続可能な社会実現、環境負荷への対応、コロナ禍後の新常态（ニューノーマル）社会への対応など、まさに時代の転換期にあるといえます。
人口減少と高齢化により基幹的農業従事者は減少を続けています。規模拡大をした法人等の組織経営体数は増加傾向ではあるが、個人経営体の減少ペースが加速したことより、農地面積など農業全体の生産規模は縮小しています。
- 農畜産物貿易交渉は、TPP11をはじめ欧米諸国との政府主導による自由貿易交渉が加速し、農業者の大きな不安となっています。
政府は、今後10年程度先を見通した「新たな食料・農業・農村基本計画」を策定、7施策からなる計画には「農業の成長産業化」「農林水産物・食品の輸出目標」他、JA組織に対し自己改革の取り組み推進を求めています。また、中長期的な観点から持続可能な食料システムの構築に向け「みどりの食料システム戦略」を策定、生産から消費までの各段階の取り組みとカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進するとしています。
- 長野県における農業産出額は、農家数および栽培面積の減少というマイナスの側面を、近年の価格高騰というプラスの側面により相殺し増加傾向にあるが、長野県JAの販売高は一貫して減少傾向が続いています。
- 農家数の推移は若年層の新規就農者が増加傾向にあるものの、高齢化による労働力不足など総農家戸数は減少の一途を辿っています。JAの正組合員数は長期的な減少傾向にある一方、准組合員数は増加傾向であり、組織基盤の構造変化と組合員ニーズへの対応により、地域の活性化ならびにJA経済事業の進展をはかる必要があります。
- このような環境のもと、長野県本部は基本理念に基づき、断の自己改革およびJA・県域および子会社の機能を最大限発揮し、かつ連携を深め、部門別事業競争力強化およびJA経済事業収支改善による経営基盤の確立をはかります。また、県本部総合経営管理体制を堅持し、県域結集の拡大と結集成果をJA・組合員への還元をすすめます。

JA全農長野基本理念

会員JAとの一体的な事業運営により、生産販売から購買まで一貫する総合経済事業を通じて、JA組合員の営農と生活の向上に貢献します。

【事業運営の基本目標】

- 持続的な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持拡大
- 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化
- JA経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

【経営管理の基本】

県本部総合経営管理体制の堅持による県域機能の発揮

事業方針

1. 農業振興事業

- 産地基盤維持に向け、マーケットニーズや地域実態、担い手ニーズに応じた生産提案により生産振興を推進します。また、JA生産法人との連携による栽培実証圃の設置やJA営農指導に係る支援体制を強化し、生産性向上に向けた技術提案と普及拡大に取り組みます。
- 激甚化する気象変動や災害に対応し、リース・レンタル事業を活用した施設化や圃場排水対策による生産安定化を推進するとともに、災害忌避のための施設強化や資材導入並びに技術対策をすすめます。
- 労働力不足や生産性向上等課題解決に向けたスマート農業の導入拡大と農業生産支援に係るシステム開発をすすめる、営農経済事業のDX化をすすめます。
- 生産振興を展開するため、野菜優良苗の安定供給とリンゴフェザー苗の供給拡大について体制を強化します。

2. 生産販売事業

- 卸売会社との連携を強め、販売部署による積極的な実需者営業と事業所の集出荷対応との結び付けを強化し、生産者手取りの最大化をはかります。また、輸出先国の開拓と既存取引の拡充による輸出事業の拡大と、実需者と連携した付加価値販売の拡大に取り組みます。
- マーケットインを起点とした生産対策に取り組むとともに、JAとの積極的な連携による系統共販率向上をすすめます。また、系統末利用・低利用の生産者等に向けた生産販売提案による系統利用の拡大に取り組みます。
- デジタル技術の活用により、系統園芸事業の業務効率化と標準化に取り組み、生産・集荷の数量拡大と実需者営業強化への業務シフトをすすめます。

3. 生産購買事業

- 包装資材事業は、材質・規格の見直し、形状変更による箱面積の削減および製造・納品の効率化をすすめる、段ボール価格抑制に取り組みます。また、機能性の高い包材の導入による商品競争力を強化し、需要の結集に努めます。
- 肥料農薬事業は、BB肥料の原料集約・見直し、省力化を目的とした軽量肥料の開発、指定混合肥料の普及、農薬の統一的な防除暦採用メリット創出によるコスト低減をすすめます。また、大規模経営

経営計画

総供給販売高計画（年度別）

【単位：百万円】

部門	令和3年度計画	令和4年度計画	令和5年度計画	令和6年度計画
生産振興部	248	260	270	280
生産販売部	159,452	158,640	159,330	159,920
生産購買部	32,600	32,900	33,100	32,700
畜産酪農部	31,800	32,000	32,000	32,000
生活部	38,500	44,000	44,100	44,200
総合計	262,600	267,800	268,800	269,100

税引前当期利益 200 百万円 （税引後当期利益 120 百万円）

体への農業担い手直送規格の拡充や土壌診断に基づく「わたしの肥料」の提案推進に取り組みます。

- (3) 生産資材事業拠点（物流・店舗）の再編・整備では、JA・県域の物流拠点・配送体制の構築、資材店舗再編・売場改善支援に取り組みJAの事業収支改善に努めます。また、システムの構築・連携による業務効率化をすすめます。

- (4) 農業機械事業は、共同購入トラクター・県域推奨型式を中心に機種・型式を絞った重点購買によるメリット創出とシェア拡大をすすめるとともに、民間業者の活用を含めた中古農機の確保および流通拡大をはかり、生産者のコスト低減に取り組みます。また、県域整備事業体制の強化をすすめ、JA農業事業を補完し、組合員サービスの充実に努めます。

- (5) 施設住宅事業は、施主代行を基本として一級建築士事務所による専門性を発揮し、高度化する農業施設への技術コンサルティング対応機能の強化をはかります。また、省エネや再生可能エネルギー利用による施設建設・改修提案の推進

6. 経営管理

- (1) 県域結集および事業競争力の強化によるJA・組合員へのメリット還元を基本とする県本部総合経営管理を堅持します。
- (2) 事業環境の変化を踏まえた県本部機能に見合う部門別収支の検証と見直しにより、事業管理費の精査および管理コストの節減に努め、経営の安定化をすすめます。
- (3) 業務に応じたリスクの洗い出しをすすめるとともに、一斉事業点検検証や業務点検を通じて、コンプライアンスの態勢強化と重点管理すべきリスク（法令違反、労務管理、労働災害、ハラスメント、個人情報管理等）の未然防止を推進します。
- (4) 県本部総合経営管理体制を担う業務体制を効率化するとともに、職員の能力開発・人材育成をはかり、JA・子会社との一体的事業遂行および自己改革の実践のための多様な雇用形態による要員体制を確立します。併せて、働き方の見直しを行い、適切な労務管理を実践します。

ならびに多様な組合員ニーズに対応した住環境改善事業に取り組みます。

4. 畜産酪農事業

- (1) 生産基盤を維持し販売数量を確保するため、JAや関係会社と協力して空き畜舎の活用による生産拡大の取り組みをすすめます。また、県本部奨励施策の充実により導入牛の拡充をはかります。
- (2) 信州プレミアム牛肉等の信州畜産物のブランド力向上や効果的販促活動による販売強化、信州産生乳の安全安心・乳質向上による有利販売を目指すとともに、農場巡回による生産性向上により農家所得の増加に貢献します。
- (3) 県本部生産農場は、肥育素子豚の安定生産、預託牛事業、乳量確保、素畜供給等を通じ、その機能を十分に発揮し県内生産基盤の維持拡大に貢献します。そのための収支改善をはかります。
- (4) 営農指導体制強化に向け、地域畜産酪農営農センターは、県本部生産農場での実習、積極的な研修参加等により職員の資質向上をはか



- (5) JA長野県グループおよび行政機関等と連携し、効果的な広報活動と、地域に貢献する組織広報をすすめます。県内プロスポーツ選手等の活用により県産農畜産物の宣伝・PR活動に取り組みます。
- (6) 子会社は、内部統制システムの整備およびコンプライアンス態勢の推進による健全経営管理をはかるとともに、JA経済事業の補完機能強化をすすめます。

り、その機能強化に取り組みます。

(5) 県主導による長野県食肉施設検讨会への参画、関係各所、食肉販売会社との協議により県内食肉処理施設の方方向付けと新たな食肉流通・販売の構築をすすめます。

5. 生活事業

- (1) SS事業の競争力強化と地域ライフライン維持に向けて、次期事業体制への段階的移行をすすめます。また石油事業は、系統結集による数量を背景とした仕入強化と農業生産用燃料支援対策の実施とともに、脱炭素社会への対応に向けたEV充電などの研究・研修に取り組みます。LPガス事業は、顧客囲い込み強化に向けて、営業力強化とホームエネルギー取扱体制の強化に取り組みます。

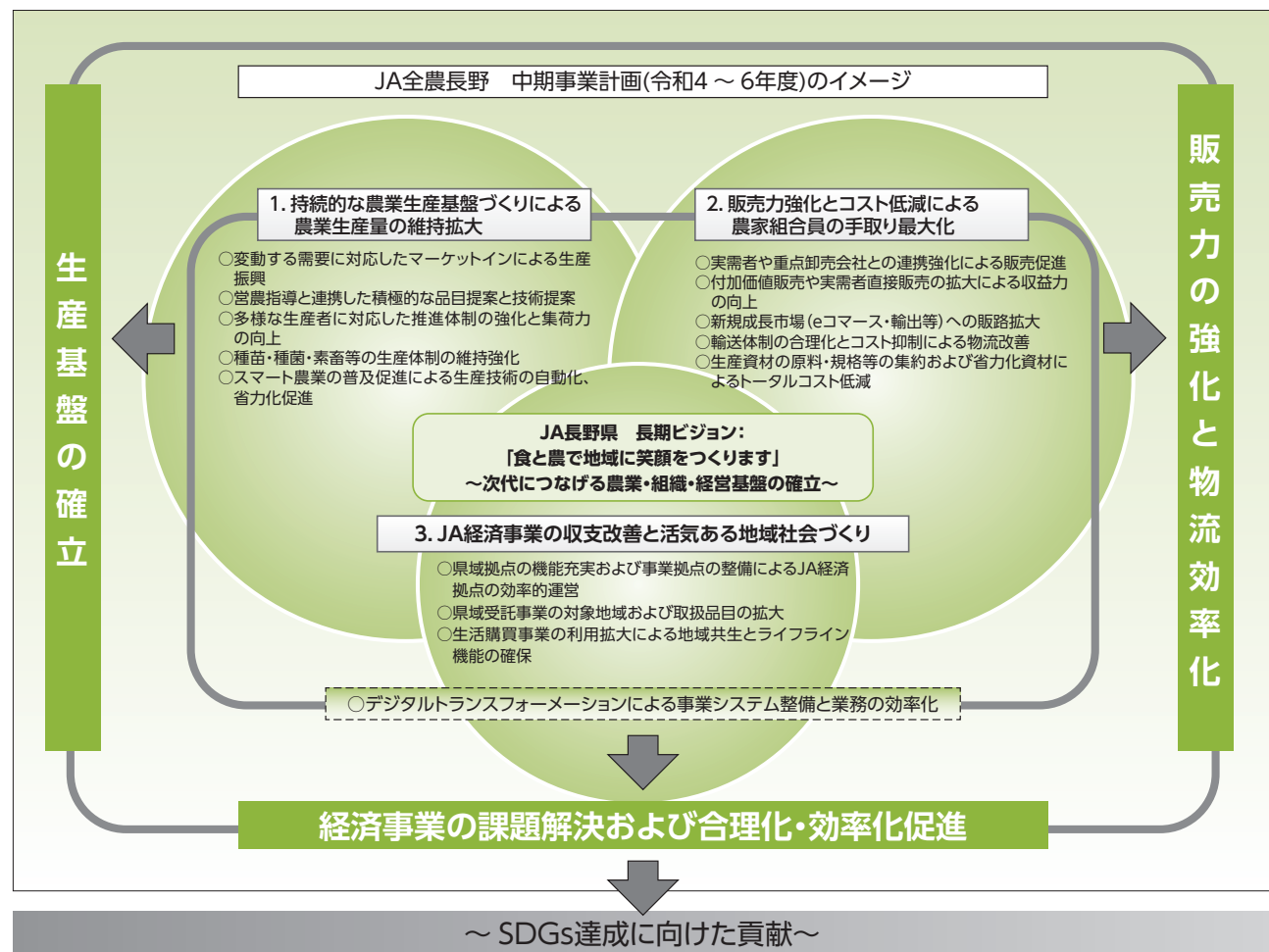
- (2) SS協同経営事業は、地域特性を活かしたSS独自キャンペーンの実施とJA事業との連携強化により来店促進をはかり、燃料油およびカーメンテ収益の確保により収支改善に取り組みます。また、マイスター認定制度による指導者育成をすすめ、接客力・技術力の向

上に取り組みます。

- (3) 自動車事業は、営農車（JAサンバー・JAキャリイ）を中心に系統結集による取扱台数確保をはかるとともに、電動車取扱体制の確立に取り組みます。

- (4) 宅配事業は、おまかせ会員戸数の維持に向けたPRおよび推進と業務効率化をすすめ収支改善をはかるとともに事業の将来的方向性の検討を行います。また、eコマース事業の拡大やJAへの配送体系見直しによるライフラインの確保に努めます。

- (5) セレモニー事業は、多様化する葬儀形態への対応力を強化し、葬儀件数とシェアの確保につながる活動をすすめます。





長野米消費拡大キャンペーン 「COCO'Sで 長野米キャンペーン」開催中

昨年11月より、長野県内のファミ
リーレストラン「ココス」全13店舗の
メニューに、マイパール長野の「長野
県産コシヒカリ」が使用されています。
さらに、安全・安心で美味しい地元
のお米、長野米を、もっとたくさん

の皆様に食べていただけるようにと、
長野米が当たるキャンペーンを店頭で
実施しています。
応募方法は、ココス店内の各テーブ
ルにある2次元バーコードからキャン
ペーン特設サイトへアクセスし、必要
事項を入力して、応募ボタンをタッ
プ！
抽選で200名様に「長野県産コシ
ヒカリセレクト」5kgが当たります。
長野米のより一層の消費拡大のため
「ココス」の店頭で足を運んでいただき
キャンペーンへのご参加をお願いしま
す。応募期間は3月
31日まで。詳しくは
キャンペーン特設サ
イトまで。

※ジャンバラヤ、ドリア、
スパイスカレー、あん
かけ炒飯、おこさまオ
ムライスを除く

キャンペーン
特設サイト



JR長野駅に飾った横断幕（2017年9月）

新大関・御嶽海関を食で応援

長野県出身の力士・御嶽海の大
関昇進が決まりました。JA全農
長野は2016年から県産農畜産
物を贈り、その量は4トンを超え
ます。

全農長野では、地元産の食材を
食べて強くなってもらいたいと、
同年7月場所から毎場所前に出羽
海部屋に農畜産物を贈っています。
これまでに牛・豚肉452kg、野
菜1,359kg、きのこ1,
584kg、果実362kg、飲むヨー
グルト2,500本など、
延べ36回、4トン超とな
ります。また、今回の1
月場所優勝と大関昇進を
を祝い農畜産物520kg
を届けました。

2017年からは御嶽
海関と広告出演契約を結
び、農畜産物のポスター、
チラシ、ラジオCMなど
にも出演していただいで
います。御嶽海関がおい
しそくに食べる姿の資料
は、見る人の食欲をそそ
ります。

全農長野ではますます
の活躍を楽しみに、これ
からも食をとおして御嶽
海関を応援します。

販売開発課

生産販売部 販売開発課の取組み ～令和3年度事業概要～

昨年度より設置された販売開発課は、
多様化する消費者・実需者ニーズに基
づく付加価値商品の開発・販売による
農業所得の向上を目的に、商品開発業
務とeコマース業務として新規事業開
拓業務に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症拡大によ
り消費行動が大きく変化し、消費者・
実需者ニーズも目まぐるしく変化し続
けています。このような環境下での令
和3年度販売開発課の取り組みを報告
します。

1. 商品開発への取組み

消費者ニーズにマッチした付加価値
商品開発として、(一社)長野県農村
工業研究所等と共に果実の加工食品で
ある果実コンポートの開発に取り組み
ました。

この果実コンポートは高圧技術を利用
し、海拔1万メートル程度に相当す
る100MPaの圧力と低温加熱の併
用により、従来の加熱(沸騰)処理に
よる熱ダメージ(型崩れ、軟化、退色等)

を最小限に抑え、

採れたて果実の
シャキツとした食
感を保持すること
で長期間に渡り信
州果実の旬のおい
しさが楽しめる商
品として開発しま
した。今後はイン
ターネット通販サイトのJAタウンで
販売予定です。



開発商品「果実コンポート(イメージ)」
右から秋映、シナノスイート、シナノゴールド、白桃

また、販売開発課の開発商品として
昨年度から販売しているフリーズドラ
イ食品の販路拡大に取り組み、大手デ
パートや大手通販会社のカタログ
ショッピングに採用されたほか、(株)
エコープサプライが展開するセレモ
ニー事業で
も採用され
ました。フ
リーズドラ
イ食品は現
在もJAタ

開発商品
「フリーズドライ詰め合わせセット」

ウンで販売中で好評をいただ
いています。
商品開発は非常に幅広いカ
テゴリであり、新規事業開
拓の取り組みにも密接に関連
しています。今後とも長野県農

村工業研究所の新技術や県内加工工
メーカーの技術を活用した商品開発
を継続します。また、全農全国本部と
共同での新商品開発等も視野に入れ、
あらゆる可能性を探りながら業務に取
り組みます。

2. eコマース事業への取組み

eコマース事業ではインターネット
通販サイト「JAタウン 全農長野」
僕らはおいしい応援団」の運営を行い、
県内生産者や農業関連法人の所得向上
をサポートしました。また、開発した
フリーズドライ食品の販売を行い、商
品開発と販売の一貫した取り組みも実
施しました。

長野県の独自色を押し出すためにサ
イトデザインのリニューアルを行うな
ど、積極的に事業を推進しました。ま
た、出店者へ商品企画の提案や商品
ページ作りのアドバイスを行い、売り
上げ向上を図りました。令和3年度は
新型コロナウイルス拡大による「巣ごも
り需要」が一服し、全国的には食品・

飲料のインターネット通販ニーズは鈍
化傾向でしたが、本県の販売実績は1
月末時点で131百万円(前年比
126%)となり、JAタウン全体の
売上2,101百万円(前年比94%)
に比べ堅調に推移しました。

今年度は、「JAタウン 全農長野」
僕らはおいしい応援団」のオリジナル
商品である「機能性表示食品 長野県
産のきたけ200g×10袋入り」に
加え、「株採りまいいたけ約600g1
株」を発売しました。
今後は県内各地から「埋もれた名品」
を発掘しJAタウンで売り出すことで、
県内生産者や農業関連法人の更なる所
得向上を図ります。

販売開発課は令和4年度も多様化す
るニーズを的確にとらえ、商品開発、
eコマース、新規事業開
拓の各業務に取り組んで
参ります。



リニューアルした
「JAタウン僕らはおいしい応援団」トップ画面

僕らはおいしい応援団URL▶
[https://www.ja-town.com/
shop/c/c3801/](https://www.ja-town.com/shop/c/c3801/)



きのこ課

学校給食向けきのこ活用セミナー

J A全農長野きのこ課は1月29日(土)、食育事業の一環として、千葉県学校給食会後援のもと、学校給食で長野県産きのこの活用を促すオンライン調理講習会を開催しました。

講習会は2部構成で、前半は産地から長野県きのこの魅力や栽培状況の説明、後半は著名な和食料理人がきのこを使用した給食献立の調理実演をしました。

千葉県学校給食会、生産施設、J A長野県ビルなど各拠点をWEBでつなぎ、勤務先や自宅からも接続できるウェビナー形式にしたことで、学校栄養教諭や保育園栄養士80名にご参加いただきました。

はじめに産地から、J A中野市の「株」小池えのき「古屋社長が、えのきたけに豊富に含まれるうまみ成分を活用した減塩法や、これからの代替肉への可能性などを説明。続いてJ Aみなみ信州の「有」小木曾きのこ園「小木曾社長が、ぶなしめじの栽培工程を説明しました。また、よりきのこに親しみを感じてもらおうとライブ中継

で栽培施設内を案内していただきました。参加者からは「実際に子どもたちを連れて見学したい」とコメントが寄せられ、関心の高さがうかがえました。さらに千葉県会場では、きのこのもぎ取り体験も行い、新鮮なきのこの豊かな香りや触感を確かめていただきました。

・主菜：エリンギ鶏つくね
・副菜：なめたけ和え
・汁物：きのこののっぺい汁
お子さんに、味はもちろんきのこの特有のプリプリ食感も楽しんでもらえるように、大き目の薄切りにカット。一方で、きのこに苦手意識があるお子さん向けには、みじん切りにしてつくねに混ぜることでおいしく食べてもらう工夫も提案されました。

今回のセミナーは、生産者、料理人、学校給食関係者が一堂に会し、長野県J A産きのこの給食への活用について考える貴重な機会となりました。きのこの課では、この取り組みを次年度に活かし、学校給食からきのこの食文化を広げる活動に取り組んで参ります。



和食献立

セミナーの様子はYoutubeにて

JA全農長野×千葉県 和食給食応援団

検索

<https://youtu.be/j-Yg4ne2zr0>



千葉会場のもぎ取り体験



(左上より時計回りで) 小木曾きのこ園小木曾社長、きのこ課生課長、小池えのき古屋社長



鈴なりの村田店主

カットえのきとエリンギの新レシピを提案

J A全農長野きのこ課では、アフターコロナにおいてますますニーズが高まると予想される家庭内調理の簡便化に着目し、電子レンジ調理に特化したカットえのきと、エリンギのレシピを新たに開発してPOPを作成しました。また、カットえのきだけの包装フィルムにレンジ調理促進に関する情報を表記しました。

■カットえのきだけ

石づきを切り落としてバラバラにほぐしてある商品で、近年その利便性の高さから市場認知度・消費量ともに向上しているアイテムです。今回はカットされている強みを大きく3つ打ち出し、5種類のレシピを開発しました。

《カットえのきだけの強み》

- ①「時短」開けたらすぐそのまま使える！
- ②「簡単」カット済みだから包丁いらず！
- ③「適量」使い切りに最適！

■エリンギ

レンチン加熱(電子レンジ調理)により染み出た汁ごと調理することで、グルタミ

ン酸などのうまみ成分を存分に活かした7種類のレシピを開発しました。お米の消費拡大にもつながっていくことを目指し、これまであまりなかったパエリア風やベトナム風スープごはんなどのエスニック要素も取り入れ、エリンギの活用を提案しています。きのこ課では、家族世帯をはじめ、一人暮らしから核家族の方まで、幅広い世代に向けてきのこの消費喚起を図って参ります。

時短
簡単
少量

きのこのレシピはこちら

信用力Faitcom

えのきとツナのふわとろスクランブルエッグ

材料(2人分)

カットえのき	1袋(100g)	塩	適量
ツナ缶(油切り)	1缶(70g)	白こし	適量
卵	2個	マヨネーズ	大さじ1(12g)
牛乳	大さじ2		

作り方

①お鍋にツナ缶の油を切り入れ、白こしを加えて煮詰める。ツナ缶の油を切り入れ、白こしを加えて煮詰める。ツナ缶の油を切り入れ、白こしを加えて煮詰める。

時短
簡単
少量

きのこのレシピはこちら

信用力Faitcom

えのきたっぷり！逆さまシュウマイ

材料(2人分)

カットえのき	1袋(100g)	鶏	大さじ1
豚ひき肉	180g	醤油	小さじ1
シュウマイの皮	6枚	砂糖	2つまみ
片栗粉	小さじ2	ごま油	小さじ1/2
レタス	2枚		

作り方

①ボール等にカットえのきを入れて片栗粉をまぶしてから、豚ひき肉とAを加えて混ぜ、8等分して丸める。

時短
簡単
少量

きのこのレシピはこちら

信用力Faitcom

エリンギ

材料(2人分)

エリンギ	1パック(100g)	レタス	100g
サラダチキン(プレーン)	1袋(100g程度)	お茶漬け(2杯)	(240g)
濃縮トマトソース	2切れ		
水	500ml		
A 鶏ガラスープの素	小さじ2		
白だし	小さじ2		
塩・白こし	適量		
お酢	お好みで		

作り方

①エリンギは長さの半分に切って5mm幅の薄切りにする。サラダチキンは縦切りにして大きめに手でほぐす。②鍋に水を入れて沸かして、お茶漬けを加えて煮詰める。お茶漬けを加えて煮詰める。お茶漬けを加えて煮詰める。

時短
簡単
少量

きのこのレシピはこちら

信用力Faitcom

エリンギ

材料(2人分)

エリンギ	50g(大1本)		
ベーコン	1枚		
A オリーブオイル	小さじ1個		
塩・白こし	少々		

作り方

①エリンギを縦半分に切ってから、切り落とさない程度に薄く切り込みを入れる。

時短
簡単
少量

きのこのレシピはこちら

信用力Faitcom

エリンギ

材料(2人分)

エリンギ(輪切りにする)	1パック(100g)		
冷凍シーフードミックス(えび・いか・アサリ)	150g		
ミニトマト(縦半分に切る)	6個		
米(洗って30分浸水させ水をきく)	1合(150g)		
にんにく(すりおろし)	(チューブ可)	小さじ1	
オリーブオイル	大さじ2	水	250ml
塩	大さじ1	粗粒コンソメ	1/2個
白こし	適量	サチャアボ	大さじ2
		カレー粉	小さじ1

作り方

①フライパンにオリーブオイル(大さじ1)とにんにくを熱し、香りが立ったら凍ったままのシーフードミックス、酒を入れて中火で炒める。汁気が出てきたらエリンギ、塩、白こしを加えて軽くしんなりするまで炒め、汁ごと取り出しておく。

園芸情報誌2誌 「信州のそ菜」「信州の果実」 新規購読者様 募集中です

栽培技術情報、流通情勢、産地・生産者のご紹介、
当月の作業ポイントなどを掲載
主な執筆者は長野県農業関係試験場研究員・各農業
農村支援センター普及指導員など
編集は長野県農政部農業技術課・関係試験場からの
ご指導をいただいております

- ◆年12回、毎月1日定期発行、ご購入者様のご
自宅に直接お届け
- ◆「信州のそ菜」野菜、花き、きのこの各情報を
それぞれ毎月号掲載（通算799号発行）
- ◆「信州の果実」リンゴ、ブドウ、ナシ、モモな
どの情報を随時掲載（通算789号発行）



定価：長野県内J A組合員価格
【配送料・消費税込み】
年間（12冊）4,995円（本体4,541円）

最寄りのJAにてご注文ください

【お問い合わせ先・バックナンバー参考誌の発送依頼先】
J A全農長野 生産振興部 生産振興課
〒380-8614 長野市大字南長野北石堂町1177-3
Tel 026-219-3811 fax 026-219-3812

グリーンレーダーの
ツイッターを始めました

JA全農長野
【公式】グリーンレーダー

@ja_greenradar



編集後記

今年度も残り1か月を切り、新年
度へ向け慌ただしくなってきました。
新型コロナウイルス感染症は、年明
け以降あつという間にオミクロン株
に置き換わり「第6波」として猛威
を振るっています。ご承知のとおり
感染力が非常に強く、押し迫る恐怖
をひしひしと感じております。ウイ
ルスが変異しても感染の経路は同じ
です。引き続き飛沫を浴びない、飛ば
さない、換気の悪い場所を避け、マス
ク着用、手洗いの実施など基本を徹
底して参りたいと思います。

一方、スポーツ界では御嶽海の初
場所優勝・大関昇進、北京五輪の日本
人選手の活躍、プロ野球のキャンペ
イン等盛り上がりを見せております。
われらが松本山雅も2022シーズ
ン開幕に向け、キャンプがスタート
しました。新体制でどのような戦い
をするのか楽しみも広がりますが、
今年も厳しい戦いが予想されます。
名波監督の下、ぜひJ3優勝、J2昇
格を目指して頑張ってもらいたいと
思います。

JA全農長野の事業現況

令和3年度1月末部門別実績表

（単位：百万円、％）

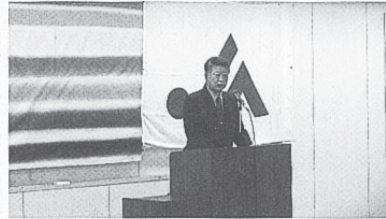
区分	部門	実 績	計画比	前年比
野菜種苗センター		160	107	113
生産振興部計		160	107	113
米	穀	13,808	92	92
果	実	36,068	99	96
野菜花き		56,291	87	96
きのこ		14,684	81	88
営 業		12,714	88	94
生産販売部計		133,566	90	94
包装資材		6,766	86	95
生産資材		8,092	110	86
農業機械		5,035	94	68
施設住宅		3,219	102	95
生産購買部計		23,112	98	85
畜 産		10,536	100	105
三 岳 牧 場		209	100	100
SPF繁殖センター		248	97	97
酪 農		15,986	105	104
ハ ケ 岳 牧 場		195	90	100
畜産酪農部計		27,174	103	104
燃料・ホームエネルギー		22,473	121	127
S S 協 同 経 営		6,036	119	93
生 活		7,670	97	97
生活部計		36,180	115	113
長野県本部計		220,192	95	97

（内部販売高含む）

3月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	放送内容（予定）
3/23(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	野菜花き課

古往今来



あいさつをする
茂木会長

Strategy

戦略

J A長野県営農センターの発足

平成18年4月1日（土）、J A長野県営農
センターがスタートし、4月3日（月）には
その発足式が開催されました。

J A長野県営農センターは、平成15年4月
に営農改革指針の具現化のため、中央会と全
県長野のワンフロア化によりスタートしまし
た。その間、食の安全安心確保対策を中心に
機能発揮してきたものの、重要テーマである
担い手対策や農業基盤強化に向けた取組に
ついては、具体的な取組がなされないまま3
年が経過したのが実態でした。

昨年10月の第58回J A長野県大会におい
て「担い手の育成・支援、園芸産地の活性化」

が決議され、県段階における機能強化発揮が
これまで以上に求められております。発足し
た営農センターには、中央会、信連、全県長野
のメンバーが集まり、各連の共通機構という
位置付けで、それぞれの連合会の持つ「営農」
への知識を持ち寄り、事業横断的な機能発揮
ができるよう運営していきます。

当面の中では、営農、経済事業改革並びに
新生全農改革プランの趣旨を踏まえ、「地域
農業の担い手の育成・支援」、「園芸産地の活
性化」、「安全・安心な農業生産の推進」の3
点の重点課題に取り組んでいきます。

1. 地域農業の担い手の育成・支援

（1）水田農業の担い手の育成

水田農業については、19年度から「品目
横断的経営所得安定対策」が導入され
ることも、生産者・生産者団体が主役
となる需給調整システムへの移行が予定
されており、その対策を享受できる個別
経営や受託者グループの法人化、集落営
農組織の経理の一元化など特定農業団
体化に向け、J Aへの支援を強化します。

（2）大型農業者など地域農業の担い手への 総合支援体制の確立

地域農業の中核的リーダーである大型
農業者に対する総合的な支援に向け、
各J Aで担い手育成支援担当部署の確

立をすすめることも、経営、税務、法人
化支援などのコンサル、農用地や労働力
の調整、生産資材渉外、販売先を特定す
る販売支援、さらに資金支援に向けた
支援ツールの整備を行い、J A担当者との
同行推進を含め具体的な支援を実施
します。

2. 園芸産地の活性化対策の推進

（1）遊休樹園地への対応と果樹産地におけ る地域営農システムの構築

優良果樹園地の遊休荒廃化に歯止めを
かけ、担い手グループを明確にしなが
ら営農団地を一体的に経営する地域営農
システムの構築をすすめることとし、既
に着手しているモデル地区での取組を
すすめることも、新たなモデル地区を
選定し、モデル事業を実施します。

（2）産地の構造改革計画と運動した園芸産 地の活性化

平成19年度から制度改定される園芸の
経営安定対策の前提となる産地の構造
改革計画の樹立実践に向け、加工品種へ
の転換、複合品目の導入、J A出資法人
による生産補完体制づくりなど主産地
J Aと協同して実施します。

（3）販売先を特定した新たな多品目産地の 育成

生産販売部と連携し、販売先を特定し
た新たな多品目産地の育成を積極的
に進めるとともに、円滑な種苗供給を
実施します。

3. 安全・安心な農業生産の推進

（1）農業ホジテフリスト制への対応

本年5月29日から施行となる農業ホジ
テフリスト制の移行に向け、農家への
徹底を図るとともに、農業散布記録の
記帳精度の向上、安全安心支援システ
ムの円滑な運営、残留農薬検査の実施を
行います。また、県と協調しながら登録
農薬の拡大を進めます。

（2）環境に優しい農産物の生産対応

おひさま「J」の認証を行うとともに、
県の環境に優しい農産物認証との整合
性やGAP（適正農業規範）への対応を
含め、新たな仕組みについての検討を行
います。

18年度は、大木島センター長の元、本所（J
Aビル6階）には営農企画課8名、農業振興
課8名（技術審議役5名を含む）を置き、ま
た地区事業拠点として、生産販売センター駐
在8名、中央会事業部担当4名を配置し、総
勢30名のチームプレイで、これらの課題に立
ち向かっていきたいと考えております。

▶ 本誌500号を記念して開始した古往今来は、今回で終了です。一年間のご愛読ありがとうございました。

ごつつあんです

信州の農畜産物



JA全農長野は、長野県の農畜産物を通して御嶽海関を応援しています。



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

グリーンリーダー13月号（毎月発行） 2022年2月20日発行 第514号
発行／JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 発行人／高田武司 印刷／PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

